

とうめい



富士山と湖

静岡県の田貫湖は秋深し、紅葉を見ながら散歩して富士山の素晴らしさを感じられます。

フォトサークルA 成瀬 行生

●目次

富士山と湖	1P	かけはし ～登録医紹介～	6P
医療記事	2P	第2事業部	
「がん治療に「放射線治療」という選択肢を(前編)」		働く仲間	7P
リハビリ通信 災害の備え	3P	標語・ポスター	
放射線治療センター 始動		がん相談支援センター	
とうめい宮の里クリニック 2022年11月1日 開院予定	4P	ペットのはなし	8P
医療安全講演会		編集後記	
特集 第3事業部 2022年マンモグラフィセンター	5P	関連施設一覧	
ミャンマー YJMC 保険キャッシュレス診療再開			

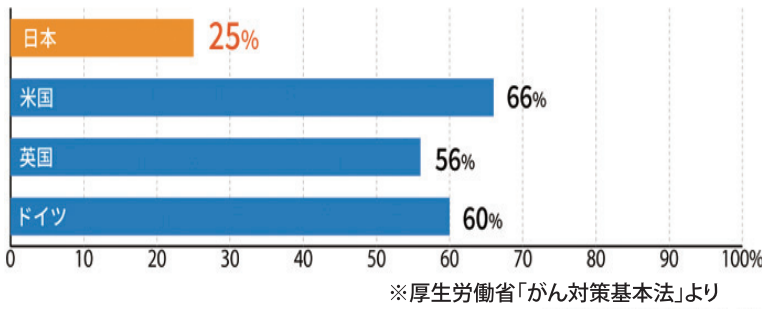
がん治療に「放射線治療」という選択肢を

放射線治療センターセンター長◆山下 巖

◆今やがんは切らずに治す時代へ
 がん治療の多くは、手術療法・化学療法・放射線治療・緩和ケアの組み合わせで行われます。

がんの治療というと、手術や抗がん剤による治療(化学療法)を思い浮かべ

放射線治療を受けるがん患者さんの割合



る方が多いかと思えますが、放射線治療もがん治療の一つになります。欧米では、放射線治療を受けるがん患者さんは60%であるのに対し、日本では25%ほどと少ないため、あまりなじみのない治療法かもしれません。しかし治療技術の進歩により、がんピンポイントで照射することができるようになったことで、体への負担が少なく、高い根治性を目指せる治療法となっています。

◆放射線治療の特徴

① 身体を傷つけずに治す

手術では、がんの周りの正常な組織も含めて切除するのに対し、放射線治療では正常な組織を残して治療できるため、身体を傷つけることなく、臓器の形や機能を温存することができます。

② 身体への負担が少ない

1回の治療時間が10分程度と短く、治療そのものによる痛みなどもないため、日々の治療による身体への負担は少なくなります。

③ 外来での通院が可能

高齢の方や合併症のために手術や薬物療法が難しい方、入院ができない方でも治療が可能になります。

④ 放射線の効果に違いがある

がんの種類・病巣の広がっている範囲によって、放射線の効きやすさに違いがあります。

⑤ 治療期間が長くなることもある

1回の治療時間は短いものの、治療期間が1〜2ヶ月と長期になる場合があります。

◆放県央地区での完結率向上を目指して

がん患者の地域の完結率 (県央地区) 2016年

肺がん	51.8%
胃がん	64.7%
大腸がん	65.9%
肝がん	35.8%
乳がん	42.6%
外来化学療法	48.8%
外来放射線療法	16.6%

当院が放射線治療導入を行う以前は、県央地区でのがん患者さんの地域完結率は外来化学療法48%であったのに対し、放射線治療は16%でした。つまり、80%以上の患者さんは

県央地区を出て、遠くの病院への通院をせざるおえない状況にありました。そこで、当院では地域完結型のがん治療を目指して放射線治療装置を導入し、治療を開始。昨年度は、年間²¹⁵名の方が当院にて放射線治療を受けていただいております。

◆大学病院レベルの治療を実現

東名厚木病院では、東京大学医学部附属病院放射線治療部門と専門のネットワーク回線を通じて、放射線治療計画装置や治療情報などを共有し連携を取ること、厚木市にいながら大学病院と同じ精度の治療が受けられる体制を整えています。根治照射はもちろん、がんによる様々なつらい症状を和らげる「緩和照射」にも力を入れていきますので、お気軽にご相談ください。

次回は、当院の放射線治療の特徴についてお話しします。

〈放射線治療に関するお問い合わせ〉

東名厚木病院がん相談支援センター
 専用ダイヤル046122912552
 平日9時〜16時



災害の備え

9月1日は防災の日でした。市内では避難訓練や避難所設営訓練など多くの企画が行われる時期です。皆さんは、どうお過ごしになりましたか？

リハビリと「災害」は関係ないようですが、J R A TやD W A Tなど避難所での生活環境の調整や不活動になりやすい避難生活での運動指導とリハビリ専門職が担う役割があります。

今回は、避難生活の中で「避難経路」と「食事」を考えてみましょう。

最近では「在宅避難」も取り上げられています。河川氾濫の危険など「避難所」へ移動する際にどのような経路を通るかどんな手段で向かうか検討してありますか？ブロック塀や道路の冠水などいつも通る経路が使えるとは限りません。平時の際にお散歩がてら、ご家族皆さんで確認してみるのはいかがでしょうか？ハ

ザードマップや近隣地図に書き込みをするなど、皆さんで情報を共有することは大切なことです。合わせて、ご家族や連絡の必要な方々の連絡先や連絡方法の確認も行いましょう。避難に支援が必要な方は、「避難行動要支援計画」について確認してみることをお勧めします。

また、食事の備蓄はいかがでしょうか？3日分の家族の食料と飲料水は大丈夫！という方も多いでしょう。では、ご家族構成に合わせて、検討はされていますか？思いのほか、備蓄のパンが固い…ご飯が固めで食べにくい…味が濃いなど、高齢者やお子様には不向きなものもあります。主食となるご飯やパンはご家族の咀嚼や嚥下の能力を配慮したり、作り方で柔らかさを調節できるものを選んでみましょう。また、お子様がいらつしゃる場合、災害食は飽きが来やすいので、おかずに作り替えたりできるお菓子や、災害ご飯のアレンジレシピなど、ママさんたちの知恵が詰まった情報サイトを応用して備蓄を工夫しましょう。

いかがですか？災害は地震や風水害など規模や種類も多く、突然やってくる今こそ、ご家族皆さんで備えてみましょう！



放射線治療センター 始動

今や、がんは切らずに治す時代へ。体の負担が少ない放射線治療を受けるがん患者さんは、欧米では60%であるのに対し、日本では25%ほどとまだ少ない状況です。放射線治療は定期的な通院が必要な場合が多く、今まで県央地区以外の地域で治療を受ける患者さんにとっては大きな負担となっていました。そこで、当院では東大病院との連携により、がんセンターや大学病院レベルの治療を実現。厚木にいながら、治療が受けられる体制を整えています。

根治照射だけでなく、緩和照射にも力を入れています

当院では、がんの進行によって起こるつらい症状を緩和する「緩和照射」を積極的に行っています。様々な症状に適応がありますので、お気軽にご相談ください。

通院だけでなく入院での治療にも対応

通院が困難な場合でも、入院にて治療を続けることができます。



私たちは、患者さんが安心して治療が受けられるようサポートしていきますので、心配なことや疑問に思っていることなどがありましたら、遠慮なくお声かけください。

お問い合わせ

046-229-2552 (がん相談専用ダイヤル)

【受付時間】 平日9:00～16:00

詳しくは、ホームページをご覧ください。

とうめい宮の里クリニック

2022年11月1日 開院予定



工事中のクリニック

宮の里の地で約30年間、医療を提供してきた宮の里クリニックは、このたび厚木市の支援もいただきながら、とうめい宮の里クリニックとして再開いたします。

三思会では、2021年より地域の皆様の要望にお応えして、「宮の里プロジェクト」を始動。厚木市生活利便施設立地促進事業（厚木市第1号）を活用し、新たに「とうめい宮の里クリニック」として2022年11月開院を目指して、取り組んでいます。宮の里近隣にお住まいの方へ医療の提供ができるよう、東名厚木病院を中心とする法人各施設とも連携し、質の高い医療を提供していきます。

*厚木市生活利便施設立地促進事業

厚木市が目指すコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市づくりを進めるもので、自宅周囲に必要な施設としてニーズの高いスーパーや診療所などが不足している地域で新しく出店などをする事業者に対し、施設設備費などの一部を支援する事業。神奈川県内では初の取り組みで、三思会は厚木市第1号。

とうめい宮の里クリニック

診療科 総合診療科・内科・外科・整形外科
院長 間下 信昭
所在地 厚木市宮の里1-2-9

電話 046-280-6222（11月1日以降利用可）

FAX 046-280-6227（11月1日以降利用可）

- お薬は院内で受け取ることが可能です。
- クリニック前は、10月30日に開催される厚木マラソン10kmの部のコースにもなっています。

医療安全講演会開催

テーマ 医療安全の視点からみた診療録
講師 大阪A&M法律事務所
医師/弁護士 小島崇宏先生



正しい診療記録は、法律上の義務であり、安全な医療を行うために必須です。しかし、記載した当事者しかわからないような内容や、具体的な表現に欠ける内容の記載が散見されます。

今回、大阪A&M法律事務所の医師/弁護士でもある小島崇宏先生に「医療安全の視点からみた診療録」というテーマで、7月22日に講演をお願いしました。講演では、診療録(カルテ)の法的根拠、カルテの役割、事例を用いたより良い記録のための記載ポイントなど

わかりやすく講演していただきました。

この講演で、多くの職種が関わるチーム医療では、診療内容の共有は治療方針にも影響するきわめて重要なものである事を再認識しました。印象に残ったのは、診療録は「病院のものではなく、患者さんのものである」という事です。カルテ開示の請求も年々増加傾向で、法的根拠を基にした正しい記録を行う事が求められています。

職員一人一人が良い医療のための記録を心がけることで、安全な医療の提供に繋がることを学びました。

医療安全管理室 安東まみ・竹田英子



第3事業部

2022年 マンモグラフィサンデー

東名厚木メディカルサテライト健診センターで、10月16日（日）に「マンモグラフィサンデー」が実施されます。

「マンモグラフィサンデー」とは、仕事などで病院を訪れにくい女性のために、日曜日（10月の第3日曜日）に日本全国どこでも乳がん健診を行うことができるよう、日本乳がんピンクリボン運動の呼びかけにより、協賛する全国の健診機関等で実施されている取り組みです。



同センターでは2009年からスタートし、今年で14回目になります。

昨年実施した際はコロナ禍であるにもかかわらず多くの予約があり、予備日程を追加したことから、乳がん検診への関心の高さがうかがえました。

女性向けイベントということで、乳がんに関する映像を待合室のモニターで放送したり、資料コーナーを設置し知識を深めてもらうための取り組みも行いました。

また、当日は受付から検査、問診まですべて女性スタッフが対応し、安心して検査を受けられるよう配慮されていることもポイント。利用者アンケートでも「女性スタッフのみで安心」との回答を多くいただいています。

毎年マンモグラフィサンデーを利用しているリピーターも多く、受診者のニーズに応える取り組みが評価されています。

気になってはいるけれど、忙しくてなかなか検査が・・・という女性の方も多はず。次回のマンモグラフィサンデーは、ぜひ受診してみてください。

ミャンマー健診クリニック

Yangon Japan Medical Centre (YJMC)

保険キャッシュレス診療再開



ヤンゴン・ジャパン・メディカルセンター (YJMC) は、8月1日より外来診療と健診サービスを再開しました。

2019年2月ヤンゴン中心部に開設されたYJMCは、日本式の健康診断と外来診療サービスを提供していましたが、昨年5月より休診していました。

ミャンマーでは昨年来の新型コロナ等により、世界の中でも医療体制の脆弱さが際立っており、現地にて雇用を維持する在留邦人や出張者のみならず、現地のミャンマー人からも医療ニーズが高まっています。YJMCでは、医療通訳と緊急搬送、保険キャッシュレスサービスを提供するJMD (ジャパニーズメディカルデスク) の看護師や医療通訳も常駐、受付～診察、検査、薬の処方、会計まで、すべて日本語で安心して受けられる体制を整備しています。

再開時より、ミャンマー医師による対面診療と、日本人医師によるオンライン相談の両方が利用でき、地方からも日本語で受診可能なサービスを提供しています。



かけはし 登録医紹介

vol.41

医療法人 AGRIE MED AGRICLINIC あつぎ



《所在地》 〒243-0213
神奈川県厚木市飯山5547
電話 046-241-6700
<http://www.medagricare.jp/clinic/>



《自己紹介》

2009年 東海大学医学部卒業
2014年 愛川北部病院 内科医員
2015年 町田クリニック 院長
2018年 港北メディカルクリニック 副院長
2020年 メドアグリクリニック 院長
2021年 メドアグリクリニックあつぎ 院長

院長
山田 明

《所属学会・資格》

日本在宅医療連合学会
身体障害者福祉法第15条指定医
協力難病指定医

はじめまして。医療法人 AGRIE MED AGRICLINICあつぎ院長の山田明と申します。

私は、東海大学医学部を卒業後、母校の付属病院や近隣の市中病院での勤務を経て数々の在宅診療のクリニックで管理職をしてまいりました。その経験を地元厚木市のために活かしたいとの思いから2021年6月、厚木市飯山に開設された当院の院長に就任いたしました。

私たちは「医療を必要としている人に、きちんと医療を届ける」というビジョンのもと、県央地区を中心に訪問診療をおこなっております。

また、2020年1月ごろから新型コロナウイルス感染症の緊張が広まる中、PCR検査やワクチン接種といった予防医学にも力を入れております。

さらに、クリニック以外でも医師と患者の距離を近づける取り組みとして、いつでもどこでも医師に相談ができるスマートフォンアプリ「LEBER(リーバー)」の提供を通じて、持続可能なヘルスケアシステム構築を目指しております。

健康のこと、医療のこと、生活のことお気軽にご相談ください。24時間、365日、皆様の安心につながるようお手伝いさせていただきます。

第2事業部

♪なでしこの里リハビリひらつか居宅支援事業所♪

平塚市において三思会経営の介護保険施設1号店として老健なでしこの里リハビリひらつかは、平成31年1月にOPENしています。

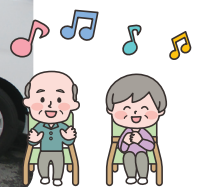
なでしこの里居宅介護支援事業所は、令和4年4月より介護支援専門員2名体制で、RE:STARTを切りました。

平塚市の高齢化率は2020年の統計で28%となっており、自宅での生活を継続しつつ介護サービスを利用したい高齢者の数が増えている状況です。その思いに対応すべく、平塚市の居宅介護支援事業所の総数は令和4年1月現在66ヶ所にのぼりますが、実際には、介護支援専門員の人数が足りず、介護サービスにつなげる事が出来ない要介護者や、平塚市高齢者よろず相談センター（包括支援センター）から、要支援者の支援依頼が多くある状況であります。

なでしこの里リハビリひらつか居宅介護支援事業



所として、地域のニーズに沿った支援が出来るよう、常に平塚市の動向に目を向けつつ、利用者様・ご家族様・地域住民および民生委員等・高齢者よろず相談センターからの相談に真摯にスピーディーに応えられるよう、日々自己研鑽に努めて参りたいと思います。



働く仲間

入職／令和2年9月1日

氏名／古谷 直弘

リハビリテーション科 理学療法士



私は2年前に当院に入職いたしました。前職では、訪問リハビリに関わっていました。訪問ではがんの患者さんと関わることが多かったこともあり、今年度は、主にがんの患者さんのリハビリテーションに関わっています。

がんの患者さんは、がんの影響で栄養障害や身体機能の低下、筋肉量の減少を引き起こし、サルコペニア・フレイル状態となりやすく、ADLやQOLの低下を来します。われわれ理学療法士は、身体機能の低下や筋肉量の減少などに対して、運動療法を行います。

リハビリテーション科は、本年より「がん患者リハビリテーション料」の算定を開始し、手術前後のがんの患者さんのリハビリテーションを積極的に行っています。今後も、がんの患者さんの入院生活に関わり、退院後の生活を安心して過ごせるよう関わっていきたいと思います。

入職／平成27年4月1日

氏名／関 啓太

2号館4階病棟 看護師



新卒で当院に入職し、今年度で看護師8年目となりました。入職後、外科病棟や内科病棟にて急性期看護を学び、現在は地域包括ケア病棟に所属しています。配属後は、自部署内だけでなく他部署や他職種との連携を行う中でお互いの専門性を発揮しながら協力してく事が、患者様の入院中の安全を守り、円滑な退院調整に繋がっていく事を学びました。コロナ渦にて、どの職種も細心の注意を払いながらの多忙な毎日ではありますが、患者様やその家族のためにも、同僚、他職種スタッフへの思いやりを大切にしながら引き続き協力し合っていきたいと感じています。

今後については、認定や専任など特化した分野の取得を目標としています。現在はどの分野にするか模索中ではありますが、目の前の事に精一杯取り組みつつ日々精進していきたいと思います。

がん相談支援センターだより

治療中のがん相談

～化学療法センター編～

当院には化学療法センターがあり、火曜日～金曜日まで化学療法を受けている患者さまが通院されています。

その中では、治療そのものに対する漠然とした不安、副作用に関する不安、日常生活に関する不安、介護に関する不安等、様々な相談がご本人・ご家族から聞かれます。

『先生には聞きづらいけど、心配でしょうがない』『忙しそうだから聞くのは今度にしようかな』など思っている方も多いのではないのでしょうか。そのような時は、是非がん相談支援員を活用して下さい。専任の看護師・ソーシャルワーカーがお伺いさせていただきます。

一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

松山 優佳



標語とポスター

院内感染対策委員会

院内感染対策委員会の標語・ポスター募集を今年も行いました。標語は”画像への標語当てはめ式”として、東名厚木病院院長の北野先生、とうめい厚木クリニック院長の河野先生、東名厚木メディカルサテライトクリニック健診センター田中院長の写真も使用させていただきました。

標語37題、ポスター9題と前年より応募数が増加しました。COVID-19への感染対策を行う中で職員の関心が高まった結果と思われます。投票結果はweb上で発表させていただき、表彰は個別に行わせていただきました。入賞作品は年間を通して院内へ掲示させていただきます。

来年も標語・ポスターの募集を行いますので、職種を問わず皆様からの応募をお待ちしています。

院内感染対策室 中嶋



編集後記



●暑い日々ゆえに、秋を待ちわびています。皆様、食欲の秋には気をつけましょう(笑) (すみれ)



●短い秋のひと時を楽しみたいと思います。(クッキー3)



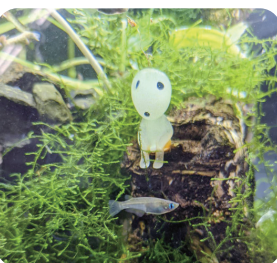
●病院の近くを散歩していましたが、沖縄を感じることができました。(おちやがかり)



●表紙は紅葉…直接見たものです。でもスイーツも外せません♪(豆大福)

ペットのはなし その71

私が飼育している相模川で捕獲したメダカをご紹介します。メダカは金魚と同様に日本では観賞魚として古くから親しまれてきました。最近でもCOVID-19による外出自粛によってメダカブームが再燃しているようです。そのため品種改良されたメダカが広く流通し、様々な種類のもので販売されています。そんな中で本来の品種改良されていない原種メダカが絶滅寸前であることは皆さまご存じでしょうか？水田の減少、河川改修による水質悪化による生息域の縮小や、品種改良メダカの放流により交雑種になっているからです。



現在では、神奈川県絶滅危惧 I A類(ごく近い将来に野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)に指定されています。メダカを放流するのであれば私にください。

地域連携室 平山 卓哉

各施設の連絡先

東名厚木病院

〒243-8571 厚木市船子232
TEL.046-229-1771 FAX.046-228-0396
<https://www.tomei.or.jp/hospital/>

とうめい厚木クリニック

〒243-0034 厚木市船子237
TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935
<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

透析センター

〒243-8571 厚木市船子232
TEL.046-229-1771 FAX.046-229-1939
<https://www.tomei.or.jp/toseki/>

愛川クリニック

〒243-0303 愛川町中津2035-1
TEL.046-284-5225 FAX.046-284-2772
<https://www.tomei.or.jp/aikawa/>

とうめい綾瀬腎クリニック

〒252-1107 綾瀬市深谷中1-8-20
TEL.0467-70-1115 FAX.0467-70-2115
https://www.tomei.or.jp/ayase_clinic/

東名厚木メディカルサテライトクリニック 健診センター

〒243-0034 厚木市船子224
TEL.046-229-1937 FAX.046-227-0677
<https://www.tomei.or.jp/tams/>

新横浜メディカルサテライト 健診センター

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-11 金子第一ビル4F
TEL.045-471-3855 FAX.045-471-3856
<https://syms.tomei.or.jp>

介護老人保健施設 さつきの里あつぎ

〒243-0034 厚木市船子322-1
TEL.046-227-1188 FAX.046-227-0033
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/roken/>

介護老人保健施設 なでしこの里 リハビリひらつか

〒254-0016 平塚市東八幡4-19-3
TEL.0463-23-7045 FAX.0463-22-4187
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/nadeshiko/>

厚木市南毛利地域包括支援センター

〒243-0039 厚木市温水西2-27-38 カーネーションパーク1階
TEL.046-250-1108 FAX.046-250-1105
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/houkatu/>

訪問看護ステーション さつき

〒243-0034 厚木市船子131-1
TEL.046-228-6556 FAX.046-228-6557
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/satuki/>

訪問看護ステーション さつき サテライト愛川

〒243-0303 愛甲郡愛川町中津3529 スズキビル2F 202号室
TEL.046-284-6677 FAX.046-228-6688

東名厚木病院居宅介護支援センター

〒243-0034 厚木市船子131-1
TEL.046-227-6557 FAX.046-228-6557
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/kyotaku/>

複合型施設マザーホーム戸室

〒243-0031 厚木市戸室1-29-1
<https://www.tomei.or.jp/fukushi/motherhome/>

1F 多機能型事業所「にじいろ」
TEL.046-222-7772
看護小規模多機能型居宅介護事業「いわしぐも」
TEL.046-222-7773

2F 訪問看護ステーション「もみじ」
TEL.046-294-1177 FAX.046-294-1178

3・4F サービス付き高齢者向け住宅「マザーホーム戸室」
TEL.046-222-7755 FAX.046-222-7756



●無料送迎バスを運行しています。

詳しくはホームページの無料送迎バス時刻表をご覧ください。
<https://www.tomei.or.jp/hospital/>